

学校だより

2月号



東深沢

令和8年1月30日

みしまの森学舎

世田谷区立東深沢小学校

校長 奥長 英樹



これからの子どもたちの学び

副校長 高木 案理

まだ寒さの厳しい毎日が続いていますが、校庭の木々の芽や子どもたちの元気な声に、少しずつ季節が動いていることを感じます。日頃より、本校の教育活動に対し、皆様より温かいご支援とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

本校では毎年「学校関係者評価アンケート」を実施しております。今年度もご協力をいただき、多くの回答をいただくことができました。ありがとうございました。

さて、2025年9月、文部科学省は次期学習指導要領の改訂に向けて「論点整理（素案）」を公表し、方針を示しました。今回の改訂では、「情報活用能力の育成」「柔軟な教育課程」「探究学習の質の向上」など、これまで以上に「個別最適な学び」や「自律的な学び」を重視しています。

現代の子どもたちは身近にスマホやタブレットがあり、情報過多の中で生活をしています。分からないことがあると、辞書や辞典を使わなくても、端末を使い即座に検索し、調べることができます。でも、その情報は正しいのでしょうか？検索結果を鵜呑みにし、信じてしまうことは非常に危険です。学校では調べ学習などを通して、信頼できる情報源を選んだり、正しい情報かを見極めたりする練習をしています。また、結果を分析したり、相手に分かりやすく伝えたりするためにはどのようにまとめたらよいかなどを学習しています。

学校だより<冬休み号>で『銀杏の葉の「ちいさきとり」のような形は、一つとして同じ形がありません。それぞれにそれぞれの形があり、色があります。その葉が一つ一つ揺れ、いくつもの葉が音を奏でることで心地よい風を感じ、その葉が一つ一つ陽に照らされ、さまざまに光り輝く様相を生み出します。私たち人間の世界も、同様なのだと思います。』と本校校長が述べていた通り、子どもたちの学びもまた様々です。次期学習指導要領では、それぞれの学びのスタイルに柔軟な対応ができるよう検討しています。例えば、登校が難しい子についてはICT機器を活用する、また個々に応じた学習のペースや方法を工夫するなどして、その子らしさをより大切にしたい学習ができるようにしていきます。

また、これからの社会で生き抜くためには、ただ暗記したことを知識として蓄えていくだけでは不十分です。「なんで？どうして？」を見つけ、自分で考え、他者と意見を交わしながら答えを導き出していくということが大切になります。総合的な学習の時間で自らテーマを決め、調べ、まとめたり、他者と協働しながら解決策を見出したりといった経験を積むようにします。その中で、社会や人生に向き合う「学びの姿勢」を身に付けられるようにします。学びのはじめは指導者が示すのではなく、子どもたち自身が感じたところから。教員は子どもたち自身、問いの設定ができるよう、あくまでもサポートする。ということです。本校では、すでに総合学習の中で各学年の実態に応じ、子どもたちからの発信を重視した学習に取り組んでいます。

学校関係者評価アンケートの結果を受け、学校関係者評価委員会で委員の皆様による考察等を行い、学校運営の改善とよりよい教育活動の実現を目指し、来年度の教育課程の作成を行ってまいります。3月に改めてアンケート結果の報告書及び集計結果をHPなどで、お知らせします。